

氏名	吉田和寛
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第148号
学位授与年月日	平成24年3月9日
学位論文題目	救急初療時において患者家族が認識するニーズ 外傷患者の家族ニーズに焦点をあてて

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	153	(ふりがな) 氏 名	よしだ かずひろ 吉田 和寛
修士論文題目	救急初療時において患者家族が認識するニーズ —外傷患者の家族ニーズに焦点をあてて—		
<p>目的： 救急初療時における外傷患者の家族のニーズの特徴とその時の心理状況についてどのように認識しているかについて明らかにする。</p> <p>方法： 外傷を理由に救急搬送され入院している患者の家族 15 名のうち、調査の参加に承諾の得られた 3 名に対し、半構成的面接を実施した。面接内容に関しては、質的帰納的手順にて分析した。</p> <p>結果： 面接内容の分析より、【強い精神的動揺による心身への影響】【安心につながる出来事】【実感があつたと認められる家族ケア】【家族ケアへの期待】【家族が常に感じる不安】【日常生活の変化と家族への支援】の 6 つの上位カテゴリーが抽出された。</p> <p>考察： 対象者は、救急外来の待ち合いにおいて、突然の予想もしない出来事により、急激な心理的危機状態に陥っており、【強い精神的動揺による心身への影響】を来し、【家族が常に感じる不安】を感じていることがわかった。対象者は、強い不安な気持ちを抱き、医療者だけではなく事務職員からの安心も求め、不安な気持ちを安定させるために【安心につながる出来事】を求めて行動している。対象者たちの【強い精神的動揺による心身への影響】を来たしている状況に対して、医師からの援助や、関係性を構築しようとする看護者の支援のような【実感があつたと認められる家族ケア】の提供がみられた。しかしながら、充足されなかったニーズもあり、対象者たちの【家族ケアへの期待】に応えるために、紙面などを用いた施設案内の充実やトリアージナースなどの配置といったスタッフの配置などのハード面の整備に加えて、家族の不安・緊張を緩和する介入が必要である。今回の対象者たちは、家族や親戚の支援によって支え合うことで、患者の緊急入院で日常生活に大きな変化は来さず生活できていることがわかった。看護者として【日常生活の変化と家族への支援】の状態をアセスメントし、患者や家族の生活に目を向け、確実にサービスの提供が受けられるよう援助することで、家族の成長する力や自己回復力の強化にむけて介入する必要性が考えられた。</p> <p>総括： 救急外来に勤務する看護師は、早期に看護者は家族に対して助力の意思を伝えることが大切である。家族は心理的危機状態にあり、外部からの刺激に過敏となっているため、待合室において、物理的環境や人的環境を整えたりすることで、待ち時間を長く感じさせない配慮や、家族の心身の状態が把握しやすい環境づくりが大切である。家族は今後の生活についての不安も強く、看護者として早期から患者や家族の生活に目を向け、確実にサービスの提供が受けられるよう援助することが大切である。救急初療時においても入院後においても同様に、患者のみならず家族にも目を向け、家族を支持し、家族のニーズをくみ取った援助を提供する必要がある。その援助のためには、看護師の情報収集やアセスメントの能力が重要となってくる。看護者は、より多くの家族と接し話す機会を多く持ち、家族とのパートナーシップの確立を目指し、よりよい人間関係を構築するよう努力することが必要である。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)